

ばんけい

教育ほんといっしゅ

かわら版

こ みち  
教育の小径

No.203

2025 September

9月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

点数を稼ぐ

印象をよくするなどして、自分に対する評価や評判を高くすることです。迎合したり媚びたりする態度をいいます。

## 選択学習 - 意義と課題 -

- 個に応じた指導方法のひとつに「選択学習」があります。授業を構成するあらゆる要素が選択の対象になります。
- 確かな学力を保障するためには、教師が選択の対象に共通性を担保するとともに、子どもたちに自ら学ぶ力を身につけることが大切です。

今月の 9月16日  
記念日 マッチの日

昭和23年(1948年)のこの日、それまで配給制だったマッチが自由に販売できるようになりました。マッチは貴重品だったのです。

## なぜ「選択学習」なのか

子どもたちは一人一人がじつに多様な存在です。生育や性格、経験はもとより、事象に対する興味・関心や問題意識などあらゆる事柄に一人一人に違いがあります。それぞれの違いは個性であり、個として存在している証しでもあります。多様な子どもたちを十羽ひとからげにした一斉・画一的な指導では、一人一人の状況に応じることができません。教師の指導に合わない子どもは授業で自己実現できません。

これまでも「子ども一人一人を大切に」とか「個に応じて指導する」などといわれてきました。これは一人一人の状況に応じて手厚く指導し、よりよく成長させようというものです。理念は理解できても、実効性ある実践は難しいものです。

子どもが主体的に取り組む手だてにはさまざまな方法があります。そのひとつの工夫が「選択学習」です。これは多様な選択肢のなかから、子ども自身が自らの問題意識や興味・関心、思いや願いにもとづいて、学習の方向や方法を選択・決定する学習です。教師が一方向的に指示し、子どもが受動的に取り組むのではなく、子どもが自らの学習活動をつくることです。

授業に子どもによる選択的な行為を組み入れた「選択学習」は、子どもの思いや願いなど一人一人の意思を尊重した指導方法だといえます。

## 選択の対象はさまざまにある

選択学習では授業を構成するあらゆる要素が子どもによる選択の対象になります。学習のめあて(課題)をはじめ教材や資料、学習活動、学習形態、学習の場などが対象になります。

複数の教材や多様な資料から問題解決に必要なものを選択して学習を進めていきます。複数のなかからひとつを選択したり追究する順序を決定したりします。学習活動は観察や実験、見学や調査、資料の活用、体験、ICT活用などのなかから、目的に応じて選択させます。学習したことを整理する際にもさまざまな表現方法・手段がありますから選択の対象になります。

さらに、学習形態は個別学習、グループ学習、一斉学習があり、子どもに決めさせることができます。学習の場も普通教室だけでなく、特別教室や学校図書館、地域の生涯学習施設などが選択の対象になります。

選択学習を行うとき、何を選択の対象にするのかを決定し、それらを効果的に組み合わせるようにします。

## 選択学習の留意事項

子どもの意思を重視した選択学習を実践すると、多くの子どもたちからは「自分の思いで学習ができるので楽しかった」「一斉学習より意欲が高まった」などの声がだされます。選択学習は一定の効果をあげる優れた指導方法だといえますが、次のような課題に留意する必要があります。

教材や資料を選択したとき子どもの学びに差が生じては、すべての子どもに確かな学力を保障することはできません。いずれを選択しても子どもたちに共通の学習内容が学べるようになっていくことが大切です。また、教師は複数の教材や資料を用意しなければなりませんから、負担になることも覚悟する必要があります。

選択学習の形態は基本的に個別学習やグループ学習が中心になります。ここでは、子ども(たち)だけで学習を展開することになりますから、子どもたちは調べ方やまとめ方、考え方などの学び方を身につけている必要があります。もし身につけていないと、自ら学ぶという意思があっても十分な学習効果は期待できません。

日ごろから子どもたちに学び方や学ぶ力を身につけることが肝要です。

## 新学級 経営の基礎知識

### 教室内の安全管理

子どもたちが学習し生活する教室は安全な場でなければなりません。日ごろ見慣れている教室環境ですが、安全確保の観点から改めて観察すると、さまざまな改善事項がみえてきます。

子どもが階上の教室の窓から落下するという、普通では信じられない事故が報告されています。窓から大きく身を乗り出すと、体の重点が外側に移動して落下するおそれがあります。窓ぎわにロッカーや戸棚があると要注意です。落下防止の柵をしたり、窓の開閉を制限したりする必要があります。

物を吊るすことを目的に、壁面にカギやクギなどが打たれている場合があります。子どもがそばを通ったとき、洋服を引っ掛けたり、皮膚を傷つけたりする事故も起きています。

事故を引き起こすのは、施設面だけではありません。雨の日に床が濡れていたり、掃除のときバケツの水をこぼしたりすると、子どもが滑ってけがをすることがあります。教室内で子ども同士が喧嘩をしたり、ボールで遊んだりして、けがをすることもあります。

学級活動の時間などに事故の可能性を予知し回避する行動をとるよう指導します。万一事故やけがが発生したときにはどのように対処するか、校内でマニュアルを確認しておきます。

教室内はけがが発生するリスクの高い場所だと受けとめ、日ごろから子どもたちの行動の仕方を視野に入れ、安全感覚をもって安全点検に努めます。

子どもたちには日ごろから自分の身は自分で守ることを徹底します。安全意識を高め、学級に安全文化を醸成します。教室の安全を維持・確保することは学級担任の重要な仕事です。

## 教育の動向

### プール施設の老朽化問題

学校の校舎や体育館の老朽化が進んでいます。そのひとつにプール施設があります。多くは昭和35年～45年（1960～70年代）に建設されたものです。改修や改修後の維持・管理には多額の費用が必要になります。

文部科学省の指針によると、国からの財政援助に当たって、施設の改築か長寿命化改修かを選択するようになっています。各自治体は文科省が発行した「学校施設の長寿命化改修の手引」をもとに改修事業を進めています。

自治体が進めている学校のプールの老朽化対策に、まず存続させるプール施設（基幹校プール）を複数の学校が共同利用するタイプがあります。これ

により自治体全体のプールの数を減らすことができます。基幹校のプールが老朽化している場合には改修が必要です。次に公営や民営のプールを活用するものです。教員による給水や排水、維持・管理などの手間が省けます。

これらにはいずれも、プールの管理費は縮減されますが、バスなどによる移動時間がかかります。学校の時間割編成にも影響してきます。バスによる費用は経常的に必要になります。

学習指導要領には「水遊び」や「水泳運動」を指導することが示されており、プールは重要な教育施設です。財政面だけでなく、教育的な観点からも十分な検討が必要です。

## 連載 先人の残した言葉 23

齊藤 喜博

### 授業においては、きびしい論理の追求だけが創造を生むのである。

齊藤喜博は、明治44年（1911年）、群馬県に生まれました。昭和5年（1930年）に群馬県師範学校を卒業して教師になります。それ以来、校長として退職するまで、教育の実践家として活躍しました。

このことばは、昭和38年に出版した『授業—子どもを変革するもの』のなかにあります。この著書は島小学校の校長を辞めた年に出版されました。本書の「あとがき」に「授業というものの本質によりせまろうとして書いたもの」とあるように、齊藤は常に授業のあり方と子どもの成長を厳しく考えていました。

自律的な判断や行動のできる子どもを育てることはいつの世も課題になります。齊藤は「目標のないままに単に子どもを解放するとか、子どもの自主性を尊重す

るとか言っても、それは真に子どもを尊重することにはならないし、子どもが潜在的にもっている力を伸ばすことにもならない」と述べています。また、毎日の授業で質の高い文学や芸術、表現活動をとおして、教材の深さや本質に迫る追求のなかで鍛えられ身につくものである。追求のある創造的な授業のなかでこそ、子どもたちは育っていくと主張しています。

ここに紹介したことばは、教材研究の深さはもとより、授業の厳しさと教師の役割が子どもたちの創造的な成長を促すうえで不可欠であると説こうとしているように思われます。個性重視の教育、個に応じた指導の充実が求められている今日、齊藤の残したことばを改めて噛みしめたいものです。

## INFORMATION

### 自然災害防止教育と 学校の役割

防災訓練や避難訓練を行う  
だけではなく、その意義や必要性を  
子どもたちに認識させることの  
重要性を説いた一書！

著者/北 俊夫  
定価/1,430円(税込)  
発行/株式会社文溪堂



※ご注文は文溪堂代理店まで！

「教育の小径」の  
すべてのバックナンバーを  
文溪堂ホームページから  
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも  
お勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

## 編集後記

マッチはおろかライターを目にするこもめつたになくなり、調理はIHコンロ、暖房はエアコンやファンヒーターとなると、燃える火を見る機会は本当に少なくなっています。しかし、だからこそ災害時の火の怖さを学ぶ安全教育の重要性も、増していると言えるのではないのでしょうか。（H記）



企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2025年9月1日